

令和5年度 一般入学者選抜の選抜・評価方法

学校番号 43

千葉県立浦安高等学校 全日制の課程 普通科

1 期待する生徒像

高校生活全般において自己の進路実現に積極的に取り組む意思があり、人物が優れ、次のア、イ、ウ、エのいずれかに該当する生徒

ア 進学に向け学習活動に積極的に取り組める生徒

イ 部活動に積極的に取り組める生徒

ウ 生徒会活動に積極的に取り組める生徒

エ ボランティア活動に積極的に取り組める生徒

2 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 学校設定検査	学校が定めた次の検査の結果
自己表現	次のア、イのいずれかを、出願時に志願者が選択 ア 口頭による自己表現（日本語によるスピーチ） 実施形態：個人 検査時間：入退室・準備時間を含め1人3分程度（スピーチ時間は1分） イ 実技による自己表現 実施形態：個人（ただし、団体種目は、複数人数で実施） 次の実技のうち1つを選択 野球（男）・サッカー（男）・バレーボール（男）・ バスケットボール（男女）・バドミントン（男女）・ 吹奏楽（男女）・硬式テニス（男女） 検査時間：20分程度（種目により異なる）

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査〔500点満点〕

評価項目	評価基準
ア 5教科の得点合計	5教科（各教科100点満点）の合計500点満点で評価する。 合計点が100点未満の場合は、審議の対象とする。
イ 個々の教科の得点	10点未満の教科がある場合は、審議の対象とする。

(2)調査書〔185点満点〕

アの数値に、エについて加点（上限50点）したものを調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	各教科の評定の全学年の合計値に $K=1$ を乗じた数値で評価する。 評定1または未評価の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 出欠の記録	欠席日数が、各学年において20日以上、または3年間において40日以上ある場合は、審議の対象とする。
ウ 行動の記録	○が1つもない場合は、審議の対象とする。
エ 特別活動の記録、部活動の記録及び特記事項	以下の場合に加点する。ただし、点線内の項目で1番点数が高いものを1つのみ、同じ項目内では3年間で1つのみとする。
	① 学級委員長（10点） 生徒会本部役員（15点）
	② 部活動部長（5点）
	③ 部活動において 部活動に3年間所属（5点）
	④ 部活動の活動実績において 別表に従って10点を上限として加点する。
⑤ 漢字検定・数学検定・英語検定の中から3級を1種有している者（10点） 漢字検定・数学検定・英語検定の中から3級を2種以上、または準2級以上を1種以上有している者（15点）	
オ 総合所見	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。

(3)学校設定検査（自己表現）〔100点満点〕

次のア、イについて、それぞれ2名の評価者が、(ア)については20点満点、(イ)及び(ウ)については各15点満点で評価し、2名の評価者の評価（各50点満点）を合計する。

ア 口頭による自己表現（日本語によるスピーチ）

評価項目	評価基準
(ア) マナー・意欲	適切なマナーを身に付けている。 発表に積極的・意欲的に取り組んでいる。
(イ) 表現	語句・言葉を正しく使っている。 声の大きさやスピードが適切で聞き取りやすい。
(ウ) 内容	テーマに沿った内容を発表している。 発表内容に具体性があり、終始一貫して説得力がある。

イ 実技による自己表現

評価項目	評価基準
(ア) マナー・意欲	適切なマナーを身に付けている。 当該種目に積極的・意欲的に取り組んでいる。
(イ) 基礎能力・技能	当該種目における基礎的な能力及び技能を身に付けている。
(ウ) 専門的技能	当該種目における専門的技能を身に付けている。

4 選抜方法

(1) 選抜の方法

「学力検査の得点」、「調査書の得点」及び「学校設定検査（自己表現）の得点」を全て合計した「総得点」により順位をつけ、選抜のための資料を慎重に審議しながら、募集人員までを入学許可候補者とする。

<総得点の満点の内訳>

学力検査 の得点	調査書の得点		学校設定検査の得 点	総得点
	評定 (K=1)	加点	自己表現	
500点	135点	50点	100点	785点

(2) その他

ア 自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いをしない。

イ 入学許可候補者とした者のうち、隣接県公立高等学校入学志願者取扱協定による入学許可候補者数が、細部協定書の示す制限比率を超えていないことを確認する。